

障がい者雇用 支援



企業と農林業施設結ぶ スナジャパン、在籍型出向促進

スナジャパン(東京都中央区、砂野吉貞社長)は、農林業などを営む障がい者就労支援施設に企業が採用した障がい者を出向できるような支援事業スキーム「自然のめぐみ」を始めた。出向先としてNPO法人シヨブクリエーター(山梨県南アルプス市)と業務提携し、このほど初の出向者が就労した。スナジャパンは企業と出向先との間で労務管理業務を担い、障がい者の就労支援と、企業の障がい者の法定雇用率の向上に貢献する。

スナジャパンは、障がい者、就労にサポートするのは精神および知的障がい者が必要。業務内容も工夫が必要。NPO法人シヨブクリエーターでは農作業に必要となる「企業にとって採用のハードルが高い」(砂野社長)と、取引が可能な製品やノ

長として在籍型出向を促進する。企業が有期契約社員として採用し、即日出向契約を締結した障がい者が出向扱いで農林業に従事できるような体制を整えた。「当面目標とする採用人数は20人。受け入れ先となる施設も増やしたい」といふ。企業からの引き合いも増えているとシヨブクリエーターは、主に精神・知的障がい者が活躍できる職場づくりを目的として、就労継続支援B型事業所を運営する。国

際的な森林管理認証「FSC認証」を受けたい森林を活用し、紙 उत्पा品を生産する。代表理事を務める一般社団法人の日本バラスポーツ推進機構(東京都)は、ベルティグズの製作も可能だ。同スキームによる生産物は、砂野社長が代表理事を務める一般社団法人の日本バラスポーツ推進機構(東京都)は、

埼玉でシニア起業家育成支援

中央区が販路開拓を支援する。化粧品メーカーやワイヤメーターによる作物の全量買い取りなど、実績も積み上げていく。田中社長は「全国的に物事を考え、自分

深谷会議所

自身のキャリアを自ら創造、開発しようとする志のあるシニア人材」なら参加可能。このプロジェクトの開始は7-8月頃の見込み。フリーマーケットなどの結果、事業化可能な有望案件については事業化に向けた資金面などのバックアップも行う予定だ。問い合わせは同商工会議所(048-5711-2145)へ。(川越)

臨海コンビナート脱炭素化 川崎市、構想策定に着手



【川崎】川崎市は臨海コンビナート(写真)の脱炭素化に向け、具体的な構想の検討を始めた。温室効果ガスの排出量を、2050年までに実質ゼロにする国全体の目標を踏まえ、多くの製造業が集積する臨海部の将来像について、新設の有機化学工業団地を進め、脱炭素化が進む中、臨海部の産業が発展する。立地企業に対する展を続ける方法、水素

2輪車用初心者マーク発売

三和製罐(東京都大田区、安田昌功社長)が、2輪車用初心者マーク「ナンバリーチャー」を発売した。初心者であることを後方に知らせることで、安全に走行できるように配慮している。価格は1200円(消費税込み)。

三和製罐、ボルトで着脱

三和製罐(東京都大田区、安田昌功社長)が、ボルトで簡単に着脱できるような考案した。ナンバリーチャーの左右のボルトのいずれかを緩めると、着脱が可能になる。価格は1200円(消費税込み)。

埼玉縣信金がビジネスフェア

【さいたま】埼玉縣信用金庫(埼玉縣熊谷市、橋本義昭理事長)は9日、さいたま市で「さいたまビジネスフェア」を開催した。

オゾンが面白い

▽「オゾンは本当に面白い」と力説するのは、エコーデザイン(埼玉県小川町)社長の長倉弘弥さん。オゾンの発生装置や関連製品の製造販売を手がけている。

健康・医療基礎研究に助成金

【横浜】木原記念横浜生命科学振興財団は、2021年度「LIP」横浜トライアル助成金の第2次募集を開始した。健康・医療分野の基礎研究成果や臨床ニーズの実用化に向けた取り組みのうち、要件を満たす開発や

開発の舞台裏

第33回 中小企業優秀新技術・新製品賞

りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社共催

優秀賞

TEES(東京都目黒区)の「INTEGRAL PLUS」(インテグラルプラス)は、車道通過時の橋梁のたわみ測定にかつ低コストで計測できるシステム。橋梁インフラの老朽化に伴う維持管理費の増加や管理に困る技術者の不足が深刻化している。その中で「橋梁の健全性を簡易に判断するニーズが高まっている」と(菅沼久志社長)という。

橋梁たわみ計測システム「INTEGRAL PLUS」



開発の中心になった梅川氏

が必要(梅川氏)と感し、製品開発に至った。研究内容。技術の実用化に向けた課題の一つは、センサーのノイズの除去。車道通過時の橋梁の振動(加速度)データからたわみ算出するためには積分処理を行うが、この処理を繰り返すことでノイズが増える。独自の技術でノイズを除去することによって、変換処理の自動化を実現した。製品化にあたっては、筐体、基板、インターフェースなど幅広い観点から試行錯誤を重ねた。同社は「テイスの開発のノウハウがなく、ゼロからスタート。現場のニーズを意識し、特にこだわったのは操作の簡易化。技術者でなくても、ボタン一つで計測できる点が

特徴だ。計測データと地球測位システム(GPS)情報はクラウドのデータベースに自動登録される。ソフト「エクセル」などへ入力する必要がある。そのための必要は、2輪車愛好家の安心を第一とし、大型2輪免許取得を機に開

データ取得事業を支援する。募集数は5社程度、助成率は100%以内。限度額は100万円。対象は横浜市に研究開発拠点と本店などを有する中小企業。締め切りは7月1日まで。募集期間は木原記念横浜生命科学振興財団LIP。横浜トライアル助成金担当(045-502-4810)へ。

▽「オゾン研究の学会に会社として、空气中のオゾン濃度と新型コロナウイルス感染型コロナウイルス感染者数対比の論文を発表。」「普段の生活空間に有害物を酸化破壊するオゾンをもっと知って」といふ。▽：同論文は、オゾン濃度が高まると思惑者数が減少する傾向のグラフを検証している。「東京、大阪、ニューヨークでも同様な現象が見られた」と長倉さんは興奮気味。(川越)

命のサポーターに、登録してください。

骨髄バンクのドナー登録は18歳から54歳まで。献血ルーム等で受付けています。お問い合わせ 03-5280-1789 [受付時間] 平日9:00~17:30 骨髄バンク 検索

僕のように、骨髄バンクで移植を待っている白血病のみなさんは年間約2,000人*。でもその4割が、移植を受けられていないんです。僕の命を救ってくれた骨髄ドナーの登録者数は、まだまだ不足しています。

※2019年日本骨髄バンク調べ

日本骨髄バンク

金庫・機械・部品加工など約100の企業・団体が出展した。開会式で橋本理事長は「アルならでの商談会が行われるものと期待している」とあいさつした。

出展者のワイ・エヌ・エム(埼玉県八潮市)の八島哲也社長は、「リアル」の展示会は約3カ月ぶり。顔をみて、相手の感情が分かるのが対面のメリット」と話した。同フェアは4回目の開催で、コロナ禍を踏まえ、対面とオンラインの両方を採用。オンラインでは30日まで開催する。

代理店や特約店が参加した新製品発表会を開いた。対面と同時に新型コロナウイルス感染症防止のためオンライン(長野県須賀市、太田哲郎社長)は全国の

代理店など招き新製品発表会オリオン機械

「少くとも恐怖を取り払い、バイクの楽しさ、気持ちよさを味わってほしい」と(安田社長)という。電子商取引(EC)ショップで一般消費者向けブランド「BLA

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

燃料を輸入、貯蔵、供給、利用する拠点。脱炭素コンビナートへの転換といった方向を4月に打ち出した。この間、開催した専門家会合を通じて、川崎港と横浜港の将来について、水素などの非化石燃料を講論し、より具体的な構想を練る。

あなた達のサポーターがあつたからこそ、僕は再びこの場所に戻ってこれた。

AC JAPAN

公益社団法人 ACジャパン 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
◆広告についてのご意見・ご要望はホームページへ。 <http://www.ad-c.or.jp>